

花きの部

(1) 花き共通

ア 環境と調和した防除の基本的考え方

切り花や鉢物生産では品目・品種が多様化し、周年栽培体系が定着している。さらに、品質が重要視されることから農薬を多用するケースが多く、環境に対する負荷や使用者に対する安全性が問われている。

これらの背景を踏まえ、今後は化学農薬のみに依存しない防除体系を構築していく必要がある。そのためには、発生予察情報を活用し、病害虫の発生消長を捉えた的確な防除を実施し、生物的防除法や物理的防除法等、環境に配慮した多様な防除技術を活用して化学農薬の節減を図るとともに、使用者に対する安全対策を講じていくことが肝要である。

そこで、次の事項について重点的な推進を行う。

防除にあたっては、ほ場周辺の環境整備や防虫網等による害虫の侵入防止対策を実施し、環境負荷の小さいB T剤やI G R剤等を選定するように努める。

(ア) 機械的除草技術

機械的手法による除草を行う。

(イ) 生物的農薬利用技術

拮抗微生物等を利用した防除体系の導入を考慮する。

B T剤は桑園や桑室の近くでは使用しない。

(ウ) 対抗植物利用技術

線虫の主な対抗植物としては、マリーゴールド、ラッカセイ等があるが、線虫の種類に合わせて対抗植物を選定する。

(エ) 被覆栽培技術

防虫網による害虫の侵入防止、紫外線除去フィルム被覆によるアザミウマ等の侵入を防止する。

(オ) フェロモン剤利用技術

フェロモントラップによる発生消長の調査による防除適期の予測や性フェロモン剤の設置による交信攪乱を行う。

(カ) マルチ栽培技術

光反射マルチの使用によるアザミウマ、アブラムシ等を忌避する。

(キ) 黄色蛍光灯利用技術

黄色蛍光灯による鱗翅目害虫の侵入を防止する。

(ク) その他環境にやさしい防除技術

作式改善やハウス管理など耕種的防除を実践する。

イ 化学的防除法の共通的な注意事項

(ア) 合成ピレスロイド剤等や蚕毒の強い剤は、桑園や蚕室の近くでは使用しない。

(イ) 合成ピレスロイド剤は、魚毒の恐れのあるところでは使用しない。

ウ 施設における省力防除法

(ア) くん煙剤, 蒸散剤, くん蒸剤

a 自燃式くん煙剤 (点火芯・点火紙などに着火して, 薬剤自体が燃える)

b 蒸散式くん煙剤 (蒸散器で使用する)

※ 使用上の注意事項

- (1) 夕方気温が上がらなくなつてからハウスを密閉して処理し, 翌朝開放する。
- (2) くん煙中は入室しない。また翌日も十分換気した後に入室する。
- (3) 通常のハウスは, 高さ 2 m としてハウス容積を算出し, 薬量を定める。
- (4) くん煙剤は薬剤散布の省力化あるいはハウス内が多湿になる場合などで利用価値が高いが, 効果不足となる場合もあるので, 薬剤散布と組み合わせて利用する。
- (5) 薬剤により, 使用方法・量などが異なるので, 使用方法や注意事項をよく読んで使用する。

(1) 花き類（草本植物）・観葉植物
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名											注意事項		
				茎腐病	立枯病	うどんこ病	灰色かび病	菌核病	黒斑病	疫病	株腐病	苗木立枯病	白絹病	F		R	
アフェットフロアブル	ベンチレラト	アミト	7			◎	◎										【キク、ユリ、チューリップ、リンドウを除く】
アーリーセーフ サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド	天然物由来				◎											注2)
オーソサイド水和剤 80	キャブタン	その他	M04	◎	◎								◎				【バラ、リンドウ、センニチコウ、コスモス、ヒマワリ、シネリア、サイトビー、ミヤコワスレ、アンズリウム、斑入りアマドコロを除く】
オロンディスウルトラSC	オキサリプロリン・マンジプロバミト	混合剤	49・40											◎			【キクを除く】
ガッテン乳剤	フルチアール	その他	U13			◎											
カリグリーン	炭酸水素ナトリウム	無機殺菌	NC			◎											【キクを除く】
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル	混合剤	10・1				◎										【ヒマワリ、ゼラニウムを除く】
サンヨール	DBEDC	有機銅	M01			◎	◎										【キク、バラ、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジーを除く】
ショウチノスケフロアブル	フルチアール・メハニピリム	混合剤	U13・9			◎											
ダコニール1000	TPN	その他	M05			◎											【バラ、キク、チューリップ、ユリ、リンドウを除く】
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	ベンゾイミダゾール	1						◎								【トルコギキョウを除く】
トリフミン水和剤	トリフルゾール	SBI	3			◎											【バラ、キクを除く】
バシタック水和剤 75	メプロール	アミト	7												花き	花き：【花き類登録】	
バチスター水和剤	バチルスズパチス	生物農薬	BM02			◎											
パレード20フロアブル	ピラジフルミト	その他	7			◎											【バラ、キク、リンドウ、トルコギキョウを除く】
ピリカット乳剤	ジフルメトリム	その他	39			◎											【キク、宿根カスミソウ、リンドウを除く】
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリペンカルブ	ストロベリン	11				◎										【キク、トルコギキョウを除く】
フルピカフロアブル	メハニピリム	アクリルピリミジン	9				◎										【バラ、スターチス、宿根カスミソウ、ユリ、リンドウを除く】
ホームイ水和剤	チラム・チオファネートメチル	混合剤	M03・1											花き	花き	花き：【花き類登録】	
ポリオキシシンAL水溶剤	ポリオキシシン複合体	抗生物質	19			◎	◎		◎								
ポリベリン水和剤	イノキサリ酢酸塩・ポリオキシシン	混合剤	M07・19				◎										【ストック、スターチス、チューリップ、バラ、クルクマ、キクを除く】
モレスタン水和剤	キノキサリ系	その他	M10			◎											【カーネーションを除く】
モンカット水和剤	フルトラール	アミト	7												花き	花き：【花き類登録】	
モンカットフロアブル40	フルトラール	アミト	7													◎	
リゾレックス水和剤	トルクロホスチル	有機リン	14	◎	◎								◎				◎
リゾレックス粉剤	トルクロホスチル	有機リン	14		◎												
リドミル粒剤 2	メタラキシル	アミト	4		◎												◎

注1) 苗木立枯病の対象病原菌の表記 F: Fusarium, R: Rhizoctonia

注2) ストロベリン系薬剤およびTPN剤とその混合剤との混用および近接散布を避ける。ストロベリン系薬剤を含む農薬を散布した後に本剤を使用する際は2週間以上間隔をあける。アセチルピリミジン系薬剤、トリフルゾール系薬剤、ベンゾイミダゾール系薬剤、キャブタン剤と混用しない。

(1) 花き類 (草本植物) ・ 観葉植物
イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名													注 意 事 項
				ハ モ グ リ バ エ 類	ハ マ キ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	オ オ タ バ ム シ 類	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ 類	カ メ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ 類	ア オ ム シ 類	バ ツ タ 類	
ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤	チアトキサム	ネオニコチノイド	4A	◎						◎							【宿根アスター, トルコギキョウ, キクを除く】
ア ク タ ラ 粒 剤 5	チアトキサム	ネオニコチノイド	4A					◎									
ア グ リ メ ッ ク	アバメクチン	マクロライド	6					◎		◎							【ガーベラを除く】
ア デ ィ オ ン 乳 剤	ベルメトリン	ピレスロイド	3A		◎	◎		◎		◎							【ハボタンを除く】
ア ド マ イ ヤ ー フ ロ ア ブ ル	イミダクロプリト	ネオニコチノイド	4A					◎									【キクを除く】
ア フ ェ ー ム 乳 剤	エマメクチン安息香酸塩	マクロライド	6	◎		◎	◎	◎									
ア ー リ ー セ ー フ	脂肪酸グリセリド	天然物由来								◎							注1)
サ ン ク リ ス タ ル 乳 剤	脂肪酸グリセリド	天然物由来								◎							注1)
ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A	◎				◎				◎					【キクを除く】
ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A					◎				◎					【キク, ガーベラを除く】
オ ル ト ラ ン 水 和 剤	アセフェート	有機リン	1B			◎		◎	◎					◎			
オ ル ト ラ ン 粒 剤	アセフェート	有機リン	1B			◎		◎	◎								【キク, 宿根スターチス, カーネーション, アリウム, タデアイを除く】
カ ウ ン タ ー 乳 剤	ハルロン	IGR	15						◎								【キクを除く】
ガ ー ド ベ イ ト A	ベルメトリン	ピレスロイド	3A												◎		
カ ル ホ ス 乳 剤	イソキサチオン	有機リン	1B										若				【キク, ガーベラ, シクラメン, アジアンタムを除く】, 若: 【若齢幼虫に適用】
コ テ ツ フ ロ ア ブ ル	クロルフェナピル	その他	13			◎				◎		◎					【キク, ストックを除く】
コ ル ト 顆 粒 水 和 剤	ピリフルキサゾン	その他	9B					◎				◎					
コ ン フ ェ ー ザ ー V	アルミゲルア・ウワハルア・ダ・イアモルア・ヒートアール・リトルア	フェロモン					◎										【コナガ, タマナギシウワバ, イラクサギンウワバ, ヨトウムシ, ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウにも適用】
サ ン ヨ ー ル	DBEDC	有機銅	M01					◎				◎					【キク, バラ, ペチュニア, スターチス, プリムラ, パンジーを除く】
シ ス テ ム ス ワ ル く ん	スワルスキーカブリタニ	生物農薬															施: 【施設栽培登録】
ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤	スピノサト	スピノシン	5						◎								【キクを除く】
ス ミ チ オ ン 乳 剤	MEP	有機リン	1B		◎				◎				◎	◎			
ス ワ ル ス キ ー プ ラ ス	スワルスキーカブリタニ	生物農薬															施: 【施設栽培登録】
ダ ニ オ ー テ フ ロ ア ブ ル	アジナピル	脱ガニ	33												◎		

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名												注意事項				
				ハモグリバエ類	ハマキムシ類	ヨトウムシ類	オオタバコガ	アブラムシ類	アザミウマ類	ミカンキイロアザミウマ類	カメムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	オンシツコナジラミ	アオムシ類		バツタ類	ネキリムシ類	ナメクジ・マイマイ類	
ダニトロンフロアブル	フェビ [®] ロキシメト	殺ダニ	21A										◎							
ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン	殺ダニ	25A										◎							
ダブルシューターSE	脂肪酸 [®] グリセト [®] ・スビ [®] ノナト [®]	混合剤	5						◎				◎							
ダブルフェースフロアブル	ビ [®] フルア [®] ミト [®] ・フェビ [®] ロキシメト	殺ダニ	25B・21A										◎							
ダントツ水溶剤	クロチア [®] ニジン	ネオニコチノイ [®]	4A					◎	◎											
ダントツ粒剤	クロチア [®] ニジン	ネオニコチノイ [®]	4A					◎	◎											【キクを除く】
チェス顆粒水和剤	ヒ [®] トロジ [®] ン	その他	9B					◎					◎							
ディアナSC	スビ [®] ネラム	スビ [®] ノジ [®] ン	5	◎			◎		◎				◎							【リンドウを除く】
チリカブリ	チリカブリダニ	生物農薬										施								施: 【施設栽培登録】
トクチオン乳剤	プロチオホス	有機リン	1B						◎				◎							【バラ、キク、プリムラ、シクラメン、ペゴニア、宿根カスミソウを除く】
トリガード液剤	シロマジン	IGR	17	マ																マ: 【マハモグリバエに適用】
ナメクリーン3	メタルテ [®] ヒト [®]	その他																		◎
ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾ [®] クス	殺ダニ	10A										◎							
ノーモルト乳剤	テフルペン [®] ス [®] ロン	IGR	15			◎														
ハチハチフロアブル	トルフェビ [®] ラト [®]	その他	21A						◎											
バロックフロアブル	エトキサ [®] ソール	殺ダニ	10B										◎							
ピラニカEW	テフ [®] フェビ [®] ラト [®]	殺ダニ	21A										◎							【カーネーション、キクを除く】
プレオフロアブル	ヒ [®] リダ [®] リル	その他	UN			ハ	◎													ハ: 【ハスモンヨトウに適用】
ベストガード水溶剤	ニテンピ [®] ラム	ネオニコチノイ [®]	4A					◎					◎							【バラ、キクを除く】
ベストガード粒剤	ニテンピ [®] ラム	ネオニコチノイ [®]	4A					◎												【キク、キンセンカを除く】
ポリオキシンAL水溶剤	ホ [®] リオキシン複合体	抗生物質	19						◎				◎							
マイキラ	メタルテ [®] ヒト [®]	その他																		◎
マラソン乳剤	マラソン	有機リン	1B					◎	◎				◎							
モスピラン顆粒水溶剤	アセタ [®] プロリト [®]	ネオニコチノイ [®]	4A					◎	◎											【ストック、リンドウを除く】
ヨールフロアブル	テトラニ [®] プロール	ジアミド	28			ハ	◎													【キクを除く】 ハ: 【ハスモンヨトウに適用】
ロムダンフロアブル	テフ [®] フェノ [®] ジト [®]	IGR	18			ハ														【キクを除く】 ハ: 【ハスモンヨトウに適用】
ロディール乳剤	フェン [®] ロハ [®] トリン	ヒ [®] レスロイ [®] ト [®]	3A					◎					◎							

注1) スト[®]ピ[®]リン系薬剤およびTPN剤とその混合剤との混用および近接散布を避ける。スト[®]ピ[®]リン系薬剤を含む農薬を散布した後に本剤を使用する際は2週間以上間隔をあける。アセタ[®]プロリト[®]剤、トリフル[®]ソール剤、ベ[®]ニル剤、キャ[®]タ[®]剤と混用しない。

(1) 花き類 (草本植物) ・ 観葉植物
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I : 殺虫 F : 殺菌	適 用 病 害 虫 名														注 意 事 項		
			ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	セ ン チ ユ ウ 類	青 枯 病	萎 凋 病	根 頭 が ん し ゆ 病	白 絹 病	立 枯 病	株 腐 病	半 身 萎 凋 病	首 腐 病	乾 腐 病	腐 敗 病	苗 立 枯 病		萎 黄 病	
							F			F	R	R			F	F		F	R
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	ダゾメト	I:8F		◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎				◎	◎	
キ ル パ ー	カーハムトリウム塩	I:8F	◎	◎			◎			◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	カルビ°クリン	I:8B				◎	◎			◎				◎	◎			◎	
ク ロ ピ ク フ ロ ー	カルビ°クリン	I:8B				◎				◎				◎	◎			◎	【キクを除く】
ソ イ リ ー ン	カルビ°クリン・D-D	I:8B・8A	◎	◎															【ストック、チューリップ、キク、カーネーション、トルコギキョウを除く】
ダ ブ ル ス ト ッ パ ー	カルビ°クリン・D-D	I:8B・8A	◎	◎			◎			◎				◎	◎			◎	【キクを除く】
デ ィ ・ ト ラ ペ ッ ク ス 油 剤	メチルイソシアネート・D-D	I:8F・8A			◎		◎					◎		◎	◎	◎		◎	【カーネーション、キクを除く】
ト ラ ペ ッ ク サ イ ド 油 剤	メチルイソシアネート	I:8F			◎		◎							◎	◎	◎		◎	【カーネーション、キクを除く】

注) 萎凋病, 立枯病, 株腐病, 乾腐病, 腐敗病, 苗立枯病, 萎黄病の対象病原菌の表記 F: Fusarium, R: Rhizoctonia

(1) 花き類（草本植物）・観葉植物
 エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項 <及び改訂理由>
キルパー	カーバムナトリウム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	